

学校教育目標	「豊かにつながり たくましく とともに輝く子」			
	(知)基礎・基本を身に付け、主体的に問題を発見し、考え、豊かに表現しようとする子を育てます。 (徳)豊かな感性を身に付け、自分を認め、他者を認め、自分もみんなも大切にする子を育てます。 (体)望ましい生活習慣を身に付け、心身ともにたくましく生きていく子を育てます。 (公)地域の人やものとかかわり合いの中で、自分にできることを考えて行動し、夢や目標をもつことができる子を育てます。 (開)多様な価値観や個性を尊重し、広い視野をもって新しい社会を創造していくことができる子を育てます。			
学校概要	創立 54 周年	学校長	副校長	2 学期制 一般学級: 個別支援学級:
	児童生徒数:	人	主な関係校:	谷本中学校

教育課程全体で育成を目指す資質・能力	中ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<言語活用能力> <認め合う力>	谷本中学校 藤が丘小学校 さつきが丘小学校 谷本小学校	笑顔であいさつ～自分を認め、相手を認め～ ・人・もの・こととのかかわりを通して、豊かなコミュニケーション力をもつ子ども(言語活用能力) ・人と豊かにかかわり、自他を認め合いながら、ともに学ぶ子ども(認め合う力)

中期取組目標	教職員が一丸となって次のことに取り組み、魅力ある温かな学校づくりを目指します。 ○教職員の研究・研修を充実させ、子どもが主体的に問題を見つけ、対話的な深い学びを通して、問題解決する力を育てます。 ○児童支援体制を充実させ、一人ひとりの子どもの心身ともに健全な育成を図ります。 ○保護者、地域関係者、外部協力者との連携を図り、安全防災も含め、協働的に子どもを育てることを大切にします。
--------	--

重点取組分野	具体的取組
生きてはたらく知	①1人1台のタブレット端末の扱いについて、各教科における効果的な活用方法を検討し実践していく。②重点研究における2年目の理科・生活科を中心に人とかかわり合いを通して、自分を高めていく活動を重視していく。③基礎基本の反復練習を自主的に促すため、朝学習と家庭学習とを絡めて各学年の実践を積み重ねる。
豊かな心	①道徳教育を充実させるために、新カリキュラムのもの別葉を活かし、授業の軌跡を残しよりよい実践につなげる。②縦割り活動において、異学年との交流の目的を明らかにして取り組むことで、思いやりの気持ちや自尊感情が育つように取り組む。
健やかな体	①食育を通して、食と健康についての知識理解や生活態度の向上を図る。②保健教育を充実させ、生活習慣と健康についての知識理解や自身の生活態度の向上を図る。③横浜市体育協会と連携し、ジュニアスポーツを通して運動の楽しさを味わう活動を充実させる。(一校一実践)。
児童指導	①児童支援専任を中心に、常にチームとして子どもたちに寄り添うことができるよう、情報共有を密にしてい。②YPアセスメントを計画的に行い、横浜プログラムを活用してよりよい学級集団を築き上げていく。③つつじスタンダードを実態に合うものにし、児童の規範意識を向上させる。
地域連携・学校運営協議会	①地域学校協働活動推進員との連携により、サポーター・外部人材の活用や教育環境整備等を進める。②学校運営協議会を開催し、「まち」とともに歩む学校づくりを進める。③PTA祭を通して、地域の多世代の方と子どもが交流し、地域への愛着を深めるようにする。
特別支援教育	①個別の教育支援計画・個別の指導計画を活用し、短期目標と長期目標を立て、個々のニーズに応えられるようにする。②SSWや学校カウンセラーなど外部との連携を通して、特別支援教育に関する職員の理解を深める。
公共心と社会参画	①地域で体験的に学ぶ機会を積極的に設け、一人ひとりの自己有用感を高めるような、社会に開かれた教育課程づくりを進める。②地域住民や企業とかかわるような学習を年間計画に位置付け、学ぶことや働くことの意義を考えられる場を設定する。
未来を開く志	①様々な教育活動を通して、人とかかわり、自他の違いを受け止めながら、共感的に理解したり、合意形成をしたりするなど、共に生きていく力を育む。②総合的な学習の時間や生活科を中心に、地域とかかわりを大切に、自ら課題を見つけ、自分で考え解決していこうとする態度を育む。
いじめへの対応	①いじめに関する取組については、学校の取組が保護者に伝わりにくいことを踏まえて、今までの実践を継続しつつ、いじめの早期発見と未然防止に努めるため、子どもたちに寄り添った実践を行う。②いじめに関しては、絶対に許されない行為であることを全職員で共通理解し、チームで解決していく。
人材育成・組織運営(働き方改革)	①ミドルリーダーが中心となりマネジメントを行うことにより、メンターチームの実践の幅を広げ、若手教員の育成につなげる。②グループウェアを活用し、ペーパーレス化、情報の共有化、コミュニケーション活性化、業務効率化を図る。③主幹教諭が各部の統括として働き方改革の推進役を行う。